

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	③-48	実施計画番号		事業開始年度	平成27年度
事務事業名	図書室の蔵書の有効利用			事業終了年度	平成28年度
担当課名	十和田市民図書館・十和田湖公民館			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等				関連事務事業	
背景や経緯等	利用者の少ない十和田湖公民館図書室の蔵書の一部を市民図書館の図書として所管替えをする。				
事務事業の目的	蔵書の有効利用を図る。				
実施状況	平成27年度から取組み、平成28年度と2カ年で1万冊の所管替え(移動)冊数を目標としている。 所管替えされた図書は、市民図書館の蔵書となるだけでなく、南公民館、東公民館へ配本するなどし、有効利用を図る。				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)		3	3
	活動日数(日)		10	10
	人件費(千円)	0	1,080	1,080
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)		1	1
	活動日数(日)		10	10
パートタイマー	人件費(千円)	0	42	42

## 【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	0	0	0

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		蔵書所管替(移動)冊数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			冊		5,000	5,000
	活動指標名②		市民図書館に配置してある冊数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			冊	136,884	150,000	160,000
成果指標	成果指標名①		市民図書館の図書充足率			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	収蔵能力195,000冊	%	目標値	195,000	195,000	195,000
			実績値	136,884	150,000	
			達成度(%)	70%	77%	
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			目標値			
		実績値				
		達成度(%)				

# 十和田市事務事業評価シート

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	①	<b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>存在意義の見直しの余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 4</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">利用頻度の少ない十和田湖公民館図書室の図書館資料を市民図書館で有効利用を図ることを目的とする改善なので妥当である。</td> </tr> </table>	<b>存在意義の見直しの余地</b>	<b>0 / 4</b>	利用頻度の少ない十和田湖公民館図書室の図書館資料を市民図書館で有効利用を図ることを目的とする改善なので妥当である。	
	<b>存在意義の見直しの余地</b>	<b>0 / 4</b>								
利用頻度の少ない十和田湖公民館図書室の図書館資料を市民図書館で有効利用を図ることを目的とする改善なので妥当である。										
②	<b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2	4					
<b>有効性</b>	③	<b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>成果向上の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 6</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">ほぼ順調である。</td> </tr> </table>	<b>成果向上の余地</b>	<b>0 / 6</b>	ほぼ順調である。	
	<b>成果向上の余地</b>	<b>0 / 6</b>								
	ほぼ順調である。									
④	<b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6					
⑤	<b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
<b>効率性</b>	⑥	<b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>コスト削減の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 6</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">移動する図書の選定などは、担当の司書の対応が欠かせない。</td> </tr> </table>	<b>コスト削減の余地</b>	<b>0 / 6</b>	移動する図書の選定などは、担当の司書の対応が欠かせない。	
	<b>コスト削減の余地</b>	<b>0 / 6</b>								
	移動する図書の選定などは、担当の司書の対応が欠かせない。									
⑦	<b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6					
⑧	<b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
<b>公平性</b>	⑨	<b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>受益者負担適正化の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 4</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">旧町図書館からの蔵書を他市内2公民館図書室の蔵書数と同じレベルにし、公平性を図る。</td> </tr> </table>	<b>受益者負担適正化の余地</b>	<b>0 / 4</b>	旧町図書館からの蔵書を他市内2公民館図書室の蔵書数と同じレベルにし、公平性を図る。	
	<b>受益者負担適正化の余地</b>	<b>0 / 4</b>								
旧町図書館からの蔵書を他市内2公民館図書室の蔵書数と同じレベルにし、公平性を図る。										
⑩	<b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2	4					
<b>現在の適性</b>					<b>20 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>0 / 20</b>			

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

**現状のまま継続**

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

蔵書の有効利用を図るため、継続して所管替えを実施する。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

同上